

千葉市科学館

海辺のミュージアムサイエンスツアー

「ちばの海エコチャレンジ」(トライアル)

実施期間：2020年4月2日(木)～4月30日(木)



茨城県自然博物館見学コース下見



東京海洋大学センター前の磯の現地視察の様子



茨城県自然博物館の見学下見の様子



センターの水産養殖施設の見学下見の様子

【事業の内容・目的】

千葉ならではの「海の学び」を創出していくため、領域を超え、さらに連携ネットワークを広げ科学館がそのハブとしての機能を担うことで、多様で多角的な「海の学び」のプログラムを提供する目的で様々な団体との連携によるサイエンスツアープログラムを構築し、トライアル実施を目指したが、コロナで中止となってしまった。しかし今回プログラムの基礎は構築できたことから、今回の成果を活用して今後の実施を目指したい。

活動の様子

1. サイエンスツアー「私たちの地球エコチャレンジを学ぼう！」のトライアル実施に向けた準備

【開催日時】2020年4月2日（木）～30日（木）※準備活動

【開催場所】株式会社エフピコ関東リサイクル工場、ミュージアムパーク茨城県自然博物館

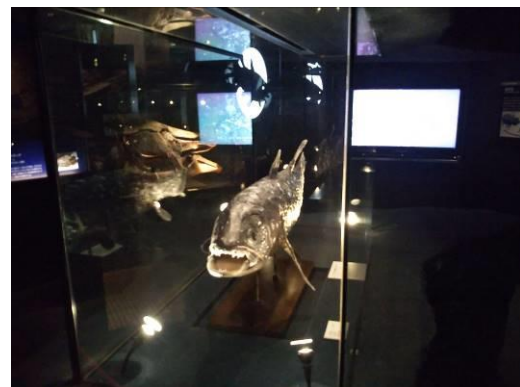
【参加者数】0人（準備活動はスタッフ5名にて実施）

【活動内容・目的】

- 私たちが海の学びの中で重要な位置づけとしている海の環境問題のうち、海洋ゴミやマイクロプラスチック問題の導入として、「知り、学び、感じる」ことを通して身近な問題として考えてもらうため、プラスチックの循環型リサイクルについて学べるプログラムを構築した。
- 今後は、新型コロナウイルス感染症による新たな生活様式を考え、このコロナ禍において3密条件を回避した環境対策をとりながら、今回企画したサイエンスツアープログラムを実施したい。



株式会社エフピコ関東リサイクル工場見学イメージ



ミュージアムパーク茨城県自然史博物館見学イメージ

プラスチックの種類

『ポリ〇〇』の名前が多い

ポリエチレン (PE)	ポリ炭
ポリプロピレン (PP)	プラスチック安物蓋
ポリ塩化ビニル (PVC)	筒じりごみ
ポリスチレン (PS)	発泡スチロール
ポリエチレンテレフタレート (PET)	ペットボトル

PE PP PVC PS PET

プラスチックごみを減らすための方法

「3R(スリーアール)」

- ・リデュース (Reduce) 使うものの量を減らす
- ・リユース (Reuse) 使った製品を何度も使う
- ・リサイクル (Recycle) 使い終わった製品を別の製品に作りなおす

※最後はきちんとごみ箱に捨てましょう

プラスチックってなに？

海の学びミュージアムサポート Supported by THE NIPPON SEA FOUNDATION

バス移動の車中でプラスチックについて学ぶリーフレットを準備



地球環境を守る学習のイメージ

サイエンスツアーのバス移動の車中で、事前に海洋ゴミの問題であるプラスチックについて、その性質や特性について分かりやすく学ぶことができるリーフレットを開発した。ミュージアムパーク茨城県自然史博物館で地球環境を幅広く学ぶために博物館スタッフの専門的なレクチャーを聴講する予定でした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2. サイエンスツアー「東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センターで海を学ぼう！」のトライアル実施に向けた準備

【開催日時】2020年4月2日（木）～30日（木）※準備活動

【開催場所】東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センター

【参加者数】0人（準備活動はスタッフ5名にて実施）

【活動内容・目的】

- 身近な千葉の海をフィールドとした本物の自然を活用した海の学びの場を創出、またキャリア教育の一環とすることを目的として、普段入ることができない大学の研究施設を見学や同施設敷の磯で海洋生物の観察を研究員の指導のもと行うプログラムを構築した。
- 今後は、新型コロナウイルス感染症による新たな生活様式を考え、このコロナ禍において3密条件を回避した環境対策をとりながら、今回企画したサイエンスツアープログラムを実施したい。



大学施設の見学



養殖施設の見学



磯の自然観察会を行う場所の様



魚類生態学の講義場所の様子

東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センターで施設見学、磯の自然観察会、養殖施設の見学、教員による魚類生態学の講義を行う予定でした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

●今回の海の学びミュージアムサポート「海の博物館活動サポート」では、サイエンスツアー形式の海の学び体験型活動プログラムを企画した。活動内容は、参加者自身が身近な海辺・水辺の自然に親しみ、海の生態系や生物多様性など地域の海の豊かさを知り、ひいては自然環境などの環境意識にも視野を広げる機会を創出することで、更なる探究心の誘発や目的意識の向上へと誘うことができるプログラムとして2つのサイエンスツアーを計画した。

●新型コロナウイルス感染症防止による開催中止となったが、博物館（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）、大学（東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センター）、企業（株式会社エフピコ）など、領域を超えた連携ネットワークの構築ができた。

●サイエンスツアーの活動内容にある体験型活動プログラムでは、身近な生活のプラスチックゴミの処理として循環型リサイクルを学ぶプログラムを構築した。また、大学の研究員や教員と連携し、一緒に研究施設を利用した共同のプログラムを構築することにより、サイエンスコミュニケーションのノウハウを活かした新たな海の学ぶ場を構築できた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 株式会社エフピコ関東リサイクル工場	施設利用
2. ミュージアムパーク茨城県自然博物館	施設利用
3. 東京海洋大学水圏フィールド教育センター	施設利用、施設提供、自然観察会の指導員協力、講義の教員依頼、大学生による指導協力

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. なし	

以上